

# 諏訪湖クラブニュース

# NO. 14



もくじ

- 平成 24 年度 総会報告
- 第 23 回 諏訪湖チャリティーウォーク報告
- 山地水諏訪湖センターを一般公開します
- 塩嶺（えんれい）小鳥バス 走っています！
- 【しがっ子クラブ】地域の自然と関わる活動の紹介
- 栄村からの『ありがとう』
- 新理事の自己紹介 八幡義雄理事／長崎功理事
- 理事会報告



## 平成24年度 諏訪湖クラブ総会報告

会長 沖野外輝夫

平成 24 年度総会が開かれました。

平成 24 年 4 月 14 日、諏訪市文化センターで平成 24 年度の総会が開かれました。第 1 部は MEGAMI MUSIC の葦木美咲さんによるライブでしたが、折悪しく天候が悪いこともあり、美咲さん独特の太陽光発電による光合成ライブはできず、やむをえず文化センターの一般電源を使用させて貰いました。美咲さん、篠原さん、ありがとうございました。



美咲さんの伸びやかな、澄んだ歌声と、勇壮な木遣り歌を聴いたお陰で、続いて行われた総会も和やかに進めることが出来ました。総会は、事前に委任状を提出して頂いた 61 名の委任出席と当日参加の 23 名を含めて、会員総数 130 名の過半数となり、用意した審議事項全ての承認を得ました。ありがとうございました。美咲さんと篠原さんはこれを機会に諏訪湖クラブに会員として登録してくださいました。

第 3 部の記念講演は信州大学大学院工学系研究科修士課程に在籍し、昨年からはイケチョウガイを材料にして研究を始めている吉田知可さんをお願いしました。演題は「イケチョウガイを用いた水質浄化実験」でした。吉田さんは信州大学山岳科学総合研究センターの宮原裕一先生の指導の下で、諏訪湖で淡水真珠の養殖を、と諏訪湖クラブで始めた計画の基礎研究を担当してくださっています。研究初年度の昨年は、イケチョウガイ、ドブガイの生活史の中で唯一浮遊生活をするクロキディウム幼生が魚に寄生する様子を観察し、興味ある結果を得ています。このような基礎的な知見が蓄積されてくれば、念願の諏訪湖での真珠生産も夢ではなくなると期待されます。この話は 5 月 3 日に行われたチャリティーウォークでのフォーラムでも子ども向けにアレンジして話していただきました。



話は横に逸れますが、私は 4 月 21 日、22 日に八剣神社総代最後の行事で伊勢神宮に参拝してきました。その帰り道でエスカルゴ牧場という所を見学しました。牧場のオーナー高瀬氏の説明によると、絶滅に瀕しているエスカルゴ（ポマティア）の完全養殖を世界で初めて成功させるまでには、30 年以上の長い年月と努力が必要であったとのことでした。琵琶湖での淡水真珠の養殖にも、同じような年月が必要であったと聞いています。諏訪湖での試みには先行している琵琶湖でのイケチョウガイの例があるのでその点有利ですが、着実な基礎的研究が大切です。宮原先生、吉田さんの地道な研究の成果を期待しています。

昨年からの自然エネルギー関係の活動も、今年度は具体的な取り組みに入ります。諏訪湖クラブが関与する活動ですから、単なる自然エネルギーの活用という枠を越えて、地域の活性と自立性を高め、新たな「まちづくり」を目指して進めていければと考えています。

ライブ、総会、記念講演を終了後は湖畔の「くらすわ」で、美咲さん、篠原さん、吉田さんをお招きして懇親会を開きました。「くらすわ」の支配人、北原 諭氏もクラブの会員として参加され、和やかな雰囲気の中にも、熱心な議論もまじえて、それぞれに有意義な時間をすごすことができました。今年度も、諏訪湖クラブの活動に皆さんの豊富なアイデアと暖かいご支援をお願いします。

## 第 23 回 諏訪湖チャリティーウォーク報告

日 時 : 平成 24 年 5 月 3 日 (木) 8 : 30 a.m. ~ 1 : 35 p.m.  
 フォーラム : 12 : 00 p.m. ~ 1 : 35 p.m. (於 : 釜口水門管理棟会議室)  
 研究発表 : 「二枚貝が水をきれいにする？」 吉田 知可氏 (信州大学大学院工学系研究科修士課程 2 年)  
 演 奏 : MUSI 3 (ギター 秋山 大一氏 ヴォーカル 五味 あゆな氏) と エディ・レイノルズ氏  
 目 的 : 国際交流と環境問題への意識の高揚を目指す  
 参加者 : 約 60 名  
 寄付金 : 31,427 円 (帰路の乗船代他、諏訪湖浄化の活動資金)

朝 6 時ころ曇り空。嵐のような雨、風、という天気予報が徹底していたので、覚悟をしてきました。ところが、ところがです。予報は大外れ！ 皆さんが集まるころには青空まで見えてきました。前日にはフォーラムだけを行うクリーンレイク諏訪の会議室を下見。フォーラム時での演奏者も会場確認にきてくださり、最悪の事態に備えました。が、無駄に終わるという嬉しい誤算。一日中暑いくらいの好天に恵まれ最高のウォーク日和となりました。さすが！みなさんの日頃の・・・ですね。

諏訪湖畔にある諏訪市野外音楽堂に集合し、開会式終了後、午前 9 時より、参加者それぞれが岡谷市湊方向 (時計回り、約 8 キロ) と下諏訪方向 (反時計回り、約 8.5 キロ) の 2 方向に分かれて歩き始める。チャリティーウォークの参加者であることがお互いわかるように今年は黄色のヒモを各自身につけてもらった。

参加者同士交流しながら、沖野外輝夫先生、花里孝幸先生、宮原祐一先生の 3 講師を中心に、さらに信州大学の学生さん達 (13 人) とともに諏訪湖の観察をしながら歩く。ふだん見過ごしやすい足元を特によく見て！ という開会式での沖野先生のアドバイス。アオコと似ているが今諏訪湖に見られるのは松の花粉とのこと。花里班は例年通りキーポイントの 1 つであるピオトープでのミジンコ等の生物の様子を解説。プランクトンネットを利用して具体的に観察。イケチョウガイの養殖は下諏訪沖である。今年は 2 年目。フォーラムでの研究発表を楽しみに歩く。

12 時 00 分より、釜口水門管理棟会議室にてフォーラム開始。最初に、諏訪建設事務所長、河西明彦氏に、最後にクリーンレイク諏訪所長の武田政弘氏にご挨拶をいただく。

フォーラムは 3 部構成 :

最初に信州大学山岳科学総合研究所で学ぶ福島県出身の信州大学大学院工学系研究科修士課程 2 年の吉田知可さんが「二枚貝が水をきれいにする？」と題して研究発表。

諏訪湖での研究についてとてもわかりやすく説明し



てくれた。巻貝と違って、どうして二枚貝のほうが水をきれいにするのか、二枚貝を使うメリット、必要な数の計算などについてイラストがたっぷり入ったスライドを見せながら。例えば、1 平方メートルの面積は人によってはなかなかピンと来ないですが、畳一枚の半分ちょっと (約 60%) だとイラストを使っのての上手な表現。きっと小さい子供にも分かってらえたことでしょう。ちなみに、講演後のクイズで優勝したのは小学生ばかりでした。

第 2 部は、「クイズ」。英語と日本語のバイリンガルで全員が挑戦。3 択問題の勝ち残り戦。毎回市民新聞社様からのご寄付のステキな賞品の「盾」を目指して、楽しくかつ少し博学になれる (?) 時間です。

最後は MUSI 3 によるギターと歌の演奏。司会は松木祐基子氏、会を盛り上げてくれた。特別出演のエディ・レイノルズ氏 (塾英語講師) が『Fly Me To the Moon』と『Country Road』を熱唱。最後に諏訪湖浄化に夢を託して作られた『ブルー諏訪湖』をみんなで歌う。この歌はこのウォークのテーマソングにしようということにもなっている。全員で歌う曲もいくつかあり「みんなでファンタイム」を文字どおり“楽しく”すごす。

午後 2 時 10 分に白鳥丸にて帰諏訪。5 月の薫風

の中、360度のすばらしい景色を眺めながら、湖上より今一度諏訪湖を観察。

「環境の学習」も、「楽しく国際交流」も、と欲張りなこの諏訪湖チャリティーウォーク、上記内容で23回も無事開催できました。今年は悪天候が予想され、例年の半分以下という参加者でしたが、密度の濃いものであったと思います。フォーラムでは、難しい話も子供たちにも分かるように工夫をしていただきました。また参加者が少なかつたにもかかわらず、参加者がたくさんの寄付をしてくださいました。さらに谷辰夫理事、小林聖仁副会長は不参加にもかかわらず、大口寄付をしてくださいました。また昨年同様に今年も釜口水門管理棟会議室にてフォーラムが開催できました。会議室からは諏訪湖が一望でき、諏訪湖チャリティーウォークにふさわしい会場です。これは諏訪建設事務所の関係者の皆様がたのご理解と警備に八幡義雄氏（諏訪湖クラブ理事、元諏訪建設事務所長）と田代幸雄氏（諏訪湖クラブ会員、県職員）のお二人があたってくださいましたお蔭です。みなさんそれぞれがそれぞれに「時間、労力、お金」を提供してくださっています。

どうぞお出かけください！

直接、間接に、本当に多くの方々が援助、協力をしてくださっていることをあらためて思います。

すべてに対し、この場をお借りして、あらためて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第24回の予定は例年どおり、2013年5月3日（憲法記念日）です。今からは是非ご予約に入れておいていただければ幸いです。

第23回 諏訪湖チャリティーウォーク会計報告	
寄付金総額：31,427円	
	支 出： ボート：25,000円 フォーラム会場費：0円
	支出総額：25,000円
寄付金残高：6,427円	
備考： ・その他の支出はJALT会計より支払う (団体保険、通信費、チラシ、反省会費等) ・寄付残金はJALT会計のシェリル・カーチョフ氏が「ツリーファンド」としてJALT会計とは別に保管 ・寄付残金は20周年記念の際に植えた樹木の維持管理等、必要時のために、プール(この件はH21年に諏訪湖クラブ役員会で了承済)	

諏訪湖チャリティーウォーク責任者/文責 金子 田美

## 信州大学山地水環境教育研究センター一般公開のお知らせ

信州大学山地水環境教育研究センターは、今年も例年同様に施設を一般市民に公開し、湖に生息する生物の展示、湖の生態系や水質汚染に関する解説を行います。また、信州大学大学院生による研究成果の発表会も開催します。

### 日 時 と 内 容

公 開 日：7月7日(土)

展 示 と 解 説：午前10時から午後4時

研 究 成 果 発 表：午後1時から午後3時

会 場：信州大学山地水環境教育研究センター  
(諏訪市湖岸通り5-2-4)

問 い 合 わ せ 先：電話：0266-52-1955

ホ ー ム ペ ー ジ：http://www.water.shinshu-u.ac.jp/



昨年的一般公開の様子

# 走っています!

## 第59回塩嶺(えんれい)小鳥バス



理事 高木 保夫

5月、6月の毎日曜日の午前6時にスタートします。講師は、本会会員でもある林正敏先生（日本野鳥の会 諏訪会長、愛称とり林さん）です。初日の5月6日に参加しましたので、その様子をレポートします。

5時36分前夜からの雨もあがって、今井のバス停より乗車。記念のオリジナルピンバッジのプレゼントあり、毎年とり林さんのイラスト作品がお見事、今年はショウビタキ。車中でもトキの仲間であるヘラサギが諏訪へ来た話や、クマタカが2羽連続して感電した話を聴く。中部電力が素早い対応をしてくださったそうので同慶の至り。5時55分会場へ到着。岡谷市役所経済部のみなさんより双眼鏡、ワイヤレスレシーバー

の貸し出し。報道各社の取材あり。キビタキ、ヒガラ、シジュウカラの出迎えを受ける。シジュウカラは胸に棒ネクタイをしていて、一年に12万匹もの虫を食べる益鳥の代表と教えていただく。センダイムシクイの聞きなしは、「焼

酎一杯グーイ」になるそう。鳴いてくれてうれしいと、とり林さんもうれしそう。イカル、キビタキ、ヤマガラ、コゲラ。ウグイスもよく聴こえる。ウグイスは、ホーホケキヨはさえずり、チャチャチャと地鳴き、ケキョケキヨは警戒と鳴き分ける。

雨上がりの地面を踏んで、ゆっくりのんびりここまで一時間歩く。アオバトの声に、鳥獣保護員として、救助した時の苦労話を披露して下さる。最初豆を用意したが、この鳩は豆を食べず。思案に暮れてみかんをやったらぱくつく。それではと、りんごやバナナも好物だった？フルーツピジョンの話。アオバトはヤマザクラやウワズミザクラの実、ドングリも好きで、塩嶺には数は多くないが生息しているという。

とり林さんは解説をしながらも、「あっあっ、いまリス、テンが横切った」と四方への観察を怠らない。4年前よりここの一帯へチップを敷いてから、ツグミが

たくさんやってくるようになったという。イノシシもチップの下にいるミミズを食べに来るため、鼻でほじった跡が現認できる。林先生が、この小鳥バスのコースをどれだけ丹精込めて整備してくださっているかに頭がさがった。

「野鳥の声は、気持ちを向けないと入ってこない」

「集中して聴こうとする気持ちがあるかないか」と参加者をひきしめ、心構えも先生は問う。ホオジロを視認、鳴き始める。聞きなしは、「一筆啓上仕り候」。フデリンドウの自生地につぼみを見る。花の閉じた姿が筆のように見えるのでこの名があり、5月20日頃から花が楽しめるという。7時17分シュレーゲルアオガエルの自生地へ。「七島八島のシュレーゲルアオガエルは日本の音風景百選に入っていて、下諏訪の儀象堂で聞けますよ」と最古参で『時を考える会』を主宰する広瀬博人さんも補足くださる。ノジコ、イカルも鳴いてくれた。また、ここには岡谷ライオンズクラブの皆さんがクヌギ、エノキを植樹してくださった。エノキを食草とするオオムラサキの繁殖を計画されていると聞く—みなさん国蝶の乱舞する日をお楽しみに。高級ようじクロモジの香り、サンショウとイヌサンショウの違い、クスサンの繭などフィールドの教材に話題は尽きなかった。この日は21種の小鳥を確認できた。遠くは愛知、神奈川からの参加者もあり。さあ塩嶺小鳥バスへ、諏訪湖クラブ会員各位のご参画をお願いします。



## 【しがっ子クラブ】地域の自然と関わる活動の紹介

### しがっ子クラブスタッフ

しがっ子クラブは、諏訪市四賀地区の小学生を対象に「豊かな人間性、感性、社会性等を養い、21 世紀地域と共に自らが生きていく力を育むこと」を目的とした育成団体として平成 12 年 4 月に発足しました。「地域の大人たちが手を携えて、自分の住む地域に誇りと愛着を持ち、地域に根ざした子供の育成」を目指して活動しています。

様々な活動を展開していますが、ここでは「地域の自然と関わり、自然を愛しむ心を育む活動」を中心に紹介します。

上川の活動は、河川敷のゴミ拾いやアレチウリ等の特定外来種の駆除、花壇づくり、地域の研究者等を講師に迎えて観察会等を行っています。また、夏にはイカダを手作りし、上川下りを行います。特に、河川敷のゴミ拾いは「ここで遊ぶのなら、まず綺麗にしなくちゃ！」との、当時の 6 年生の呼びかけから始まり、恒例となりました。アダプトプログラムへの参加は子供たちの意見を聞いて決めました。



梅雨前の神戸山のプレーパーク（冒険遊び場）での活動は、子供たちはおのこの考えで遊びます。秋には落葉の中で思いっきり遊び、自然を満喫します。

【しがっ子クラブホームページ <http://www.lcv.ne.jp/~sigakko/>】



環境教育を意識しての活動ではありませんが、自然に触れ、学ぶ機会となっていると感じています。上川等での自然体験においては、多くのサポーターを得ることもできました。



しかし、上川では平成 18 年の災害などの影響からアレチウリの繁茂が激しく葎が浸食され、駆除作業はままなりません。天候不順の影響から楽しみにしていたイカダ下りを中止することが多くなりました。また、昨年は福島第 1 原子力発電所の事故による放射能汚染の影響への懸念から秋の神戸山の活動を中止しました。

最後となりますが、この活動に御理解、御協力いただいております諏訪湖クラブ会長沖野先生を初め、多くの支援者の皆様に感謝を表すとともに今後ともご支援をお願いするしだいであります。

諏訪湖クラブの皆さん、是非、いつでも結構ですから遊びに来てください。



栄村より、クラブからお送りした支援金へのお礼状が届いております  
 村長さんからの礼状・会計報告、子どもさんや住民の方々からの絵手紙をご紹介します

長野県北部地震のご支援に対する御礼

全国の皆様、ありがとうございました。

栄村は長野県の最北端に位置し、総面積 271k㎡、人口 2,300 人足らずの山村です。日本有数の豪雪の村として知られており、平年でも積雪は 3m に達します。

平成 23 年 3 月 12 日、午前 3 時 59 分マグニチュード 6.7、震度 6 強の地震の直撃を受けました。震源は、隣接する新潟県津南町との県境付近で、当時残雪は 2m ほどで春を待つ村は未曾有の災害を経験することになりました。発生直後から、警察署、消防署、近隣市町村をはじめとする全国の多くの自治体、大勢のボランティアの皆さんなど各方面からご支援、ご協力をいただきました。また、全国各地から心温まる支援物資や義援金をたくさん頂戴致しましたことに対し、心から御礼を申し上げます。

被害状況は、家屋全壊 33 棟、大規模半壊 21 棟、半壊 148 棟、一部損壊 486 棟と被害のなかった秋山地区を除く村内全世界の 93% に及びました。道路は 110 ヶ所、農地は 1,000 ヶ所以上、その他の公共施設も多数被害を受けました。復旧に向けて全力で取り組んでいます。

復興に向けては、現在「震災復興計画」を策定中ですが、5 年後の栄村の姿を見据え、震災に見舞われる以前より住みよい村を目指した計画としたいと思っています。

終わりに、篤志をお寄せいただいた皆様に改めて感謝を申し上げます、別掲のとおり使途の内容を報告させていただきます。今後も栄村をよろしくご支援いただきますようお願い申し上げます、御礼のご挨拶とさせていただきます。

平成 24 年 3 月 吉日

篤志者 各位

長野県栄村  
 村長

鳥田茂樹



田中 トコ子



長瀬 大輔



感謝にみんなの温かい心を  
 長野県北部地震 栄村災害義援金・寄附金のご報告

(平成24年2月22日現在)

■栄村に直接寄せられた義援金 11,570件 785,055,825円

【被災者への配分状況】

(単位:円)

区分		世帯数	配分額	計	
1次	震災見舞い	711	50,000	35,550,000	
2次	全壊	32	2,000,000	64,000,000	
	大規模半壊	21	1,000,000	21,000,000	
	半壊	142	500,000	71,000,000	
	一部損壊	471	250,000	117,750,000	
	お見舞い	※51	50,000	2,550,000	
	コミュニティ	31集落		29,999,999	
3次	個人所有住宅	665	500,000	332,500,000	
	村営住宅等	52	100,000	5,200,000	
	コミュニティ	31集落		30,000,000	
	加算	住宅新築	12	500,000	6,000,000
		住宅購入	4	300,000	1,200,000
合計				716,749,999	

※村営住宅、教員住宅等に居住する者へ配分

残額 68,305,826円

残金については、今後義援金配分委員会で配分方法等を決定し被災者へ配分する予定です。  
 (義援金は世帯ごとの配分とさせていただきますので、集合住宅などのように被災した棟数と義援金配分の世帯数は異なります)

村の災害復旧・復興のためにお寄せいただきました寄附金については、下記のとおりです。  
 村の災害復旧・復興(道路、学校等の復旧事業や震災公営住宅の建設等)に役立たせていただきます。

■村の災害復興等のために寄せられた寄附金 465件 83,598,761円



## 新理事 自己紹介

**八幡 義雄** 岡谷市に生まれた私にとってなる諏訪湖は、自然を学び取るフィールドでした。高校では、生物部に所属しプランクトンの研究をしました。諏訪湖上に24時間いて、光りに対する垂直変位を調べました。その後は、諏訪とは離れてしまいましたが、平成20年から2年間は諏訪建設事務所に在任し、諏訪湖のヒシの繁茂に頭を悩ませました。ここ10年山梨県立美術館で続けている美術部OB展に、今年は諏訪湖の保全を願って、「初冬の諏訪湖」を出品しました。

岡



**長崎 功** こんにちは 長崎 功と申します。諏訪湖クラブと関わりを持ったのは、長崎専務理事から「太陽光の話が聞けるので来てみないか」と言うのがきっかけでした。長崎専務の策略とはつい知らず、のこのこと諏訪市文化センターに出かけたのが始まりです。深みにハマってしまったようです。

30年弱化石燃料の取扱いに従事していましたが、3年ほど前に太陽光発電の事業に鞍替えし、現在では太陽光発電はもちろんのこと、太陽光熱利用機器、薪ストーブ、ペレットストーブ等の自然エネルギー活用機器の販売、土に返せる使い捨てECOカイロ、瞬間冷却パットの製造販売、LED電灯販売を行っています。

「脱石油」を！！（いま使っている石油は外国にお金を支払っているのです。）地球の資源を後世の人たちの為に大切に残しましょう！！人間は地球を食い荒らす、もっとも害をもたらす生き物だ。アレチウリ、ブラックバスなんて比較にならない。アレチウリのすさまじい繁殖は、CO<sup>2</sup>をふんだんに使って光合成をおこなっているはずです。この観点からみれば良い植物です。温暖化の食い止めに役立っています。

人間の都合からの解釈ではなく、地球からの解釈を！！だから諏訪で、太陽のエネルギーを、地球の温泉エネルギーを、木質バイオマスの利用拡大をすすめてみましょう。各エネルギーを使用目的に応じて組み合わせる利用をし、地産地消をする事で、そこに従事する仕事を作り出し、雇用を作り出す循環型社会ができればと考えます。このことを諏訪湖クラブの中で、さらに勉強させて頂きたいと思っています。エネルギーの循環・雇用の創造・お金の循環、これからも宜しくお願い致します。

私のもう一つの起点は、1992年 16歳の少女（セバアン・カリス・スズキ）の「リオ・サミットの伝説のスピーチ」です。 ECO: environment childrens organization



第46回 日 時：平成24年 3月25日（日）10:00～12:00  
場 所：スマートレイク事務所  
出席者：沖野、長崎政、上島、宮坂、宮原、長崎功、八幡、高木  
内 容：  
1. 平成24年度総会議決（案）について審議  
2. 次回ニュースの発行について  
3. 「これまでの諏訪湖浄化の取り組み」「伊那浄水管理センター太陽光発電設備について」

第47回 日 時：平成24年 5月20日（日）10:00～12:00  
場 所：スマートレイク事務所  
出席者：沖野、小林（聖）、金子（田）、宮坂（平）、長崎（功）、市川、八幡  
内 容：  
1. 諏訪地域自然エネルギー普及促進会議報告  
2. チャリティーウォーク報告  
3. その他

## 理事会報告

企画・編集・発行 諏訪湖クラブ事務局  
TEL/FAX 0266-58-0490 E-mail e-suwa-info@lake.gr.jp

諏訪湖クラブニュース

No. 14